



令和2年度  
事業報告書

社会福祉法人 やながせ福祉会

居宅介護支援事業所

大津みやび野ホーム居宅介護支援事業所

令和2年度 事業計画

<p>目 標</p>	<p>利用者とその家族の意向を大切にしながら、個々の能力に応じた自立した暮らしが営める支援をすすめていくことで、地域から信頼される事業所を目指す。</p>
<p>理 由</p>	<p>利用者が住みたい場所でその人らしく生活できる環境を利用者や家族と一緒に考え、ケアマネジメントが実行できる介護支援専門員になりたいため。</p> <p>介護と医療、保健、福祉分野に加えて、ボランティアなどインフォーマルサポート機関とも連携を図っていくことで、地域から信頼される介護支援専門員になりたいため。</p>
<p>具体的対応策</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者や家族に対して、希望する情報や必要とされる情報を聞く側の立場に立って、わかりやすく的確に説明ができるように施設内研修や事例検討会などを重ねていき、聞き出す力、分析する力、伝える力を高める。</li> <li>2. 介護保険制度内外の多様な社会資源を柔軟に組み合わせながら支援を展開していけるように会議の中で知識を高め、居宅サービス計画書に反映する。</li> <li>3. 各専門職や専門機関とのネットワークの強化を図り、多職種協働によるケアマネジメントが円滑に行えるように医療機関や行政が主催する研修会に積極的に参加する。</li> </ol>

令和2年度 事業報告

<p>事業報告</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する中、関係機関や事業所内の介護支援専門員との連携を密に行い、ネットワークの強化に努めた。</p> <p>また、3密を避ける観点から介護と医療、保健、福祉分野に加えて、ボランティアなどインフォーマルサポート機関との連携を図るための外部研修や地域活動への積極的な参加は難しかったが、地元の公民館活動に参加し、地域住民の方々との交流ができたことは貴重なものとなり、聞き出す力、分析する力、伝える力を高めることに役立った。</p> <p>今後はリモートでの環境を活用するなど、感染症対策に取り組みつつ、事業所内でのコミュニケーションを大切にし、情報共有と共通認識のもと、ケアマネジメントを行っていききたい。</p>
<p>事業運営総括</p>	<p>必要とされる情報は聞く側の立場に立って、わかりやすく的確に説明するなど丁寧な支援を心がけていることで、契約件数は少しずつ増えている。引き続き利用者が住みたい場所でその人らしく生活できる環境を利用者や家族と一緒に考え、ケアマネジメントとして、実行できるように知識と技術を高めていきたい。</p> <p>コロナ禍から戸惑いながら利用者や家族に意向にそったケアマネジメントを行っている中、今後は災害や感染症などから円滑な業務が困難となった時でも、適切な支援が継続できる体制づくりに努めていきたい。</p>

要介護度の状況 《平均要介護度 1.79》

令和3年3月31日 現在

	人数	割合
要支援 1	14	9%
要支援 2	9	6%
予防計	23	15%
要介護 1	65	41%
要介護 2	33	21%
要介護 3	19	12%
要介護 4	13	8%
要介護 5	4	3%
介護計	134	85%
合計	157	100%

新規契約者数

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	3	7	4	5	4	5	3	10	3	6	2	0	52

利用者数

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1・2	20	21	22	24	23	23	23	23	23	22	22	23	269
プラン数	123	124	124	128	129	130	131	131	131	134	132	134	1,551
合計	143	145	146	152	152	153	154	154	154	156	154	157	1,820

要介護認定調査数

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅	0	0	0	0	0	2	0	2	2	1	1	0	8
特養	1	0	0	0	2	4	0	5	4	2	1	2	21
合計	1	0	0	0	2	6	0	7	6	3	2	2	29

職員間の内部研修の実施状況 (令和2年度)

研修名	研修内容	研修内容	研修内容	参加職種	参加人数	期間	講師(職・氏名)
基本理念・接遇研修	法人理念・倫理・法令遵守・個人情報保護について			介護支援専門員	39名	4月1日	施設長
人権意識(身体拘束)	身体拘束に関する認知度調査、身体拘束行為及び防止の理解について (コロナ感染予防のため資料配布)			介護支援専門員	55名	5月20日	身体拘束防止委員
食中毒について	食中毒の原因と対策について			介護支援専門員	39名	6月29.30日	感染委員会(管理栄養士)
終末期ケアについて	看取りケアに関する指針について (コロナ感染予防のため資料配布)			介護支援専門員	62名	12月21日	施設介護支援専門員
防災食について	緊急時の防災食の提供及び対応方法について (コロナ感染予防のため資料配布)			介護支援専門員	66名	1月24日	食事委員会
介護保険制度	定期巡回型訪問介護について (コロナ感染予防のため資料配布)			介護支援専門員	65名	2月	施設長
リスク管理	一年間の事故報告書集計、事故の種類と傾向、事故報告書の正しい書き方について (コロナ感染予防のため資料配布)			介護支援専門員	82名	3月31日	生活相談員

参加人数は併設事業所も含む。

職員の法人内部研修の実施状況 (令和2年度実績なし)

職員の外部研修の受講状況 (令和2年度)

研修名	研修内容	参加職種	参加人員	日付	期間	場所	研修結果の報告方法
第1回網干ブロック包括的、継続的ケアマネジメント研修	倫理（秘密保持）について	介護支援専門員	1名	7月21日	1日	網干市民センター	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	地域包括ケアシステム、倫理について	介護支援専門員	1名	8月19日 20日	2日	兵庫県のじぎく会館	口頭・復命
第1回広畑ブロック包括的、継続的ケアマネジメント研修	生活保護法とケースワーカーの役割、介護支援専門員との連携、協働について	介護支援専門員	1名	8月24日	1日	姫路西保健センター	口頭・復命
事例を通じた看取りの勉強会	様々な場面や役割により看取りの支援を考えることについて	介護支援専門員	1名	8月25日	1日	大津みやび野ホーム 事務所（リモート）	口頭・復命
ケアマネジメント向上会議	認知症に関する事例について	介護支援専門員	1名	8月27日	1日	網干市民センター	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	業務管理、リスクマネジメントについて	介護支援専門員	1名	8月28日	1日	兵庫県のじぎく会館	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	地域援助技術について	介護支援専門員	1名	9月3日	1日	兵庫県のじぎく会館	口頭・復命
第2回網干ブロック包括的、継続的ケアマネジメント研修	感染症について	介護支援専門員	1名	9月17日	1日	網干市民センター	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	医療連携、多職種労働の実現、対人援助者監督指導について	介護支援専門員	1名	9月16日 9月17日	2日	兵庫県のじぎく会館	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	今求められる医療連携について	介護支援専門員	1名	9月19日	1日	姫路労働会館	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	対人援助者監督指導について	介護支援専門員	1名	9月30日	1日	兵庫県のじぎく会館	口頭・復命

研 修 名	研 修 内 容	参 加 職 種	参 加 人 員	日 付	期 間	場 所	研 修 結 果 の 報 告 方 法
姫路市介護認定調査員研修	認定調査の基本的な考え方について	介護支援専門員	2名	10月5日	1日	姫路市総合福祉会館	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	スーパージョンの実践論、事例検討 研究の基本的な考え方と進め方について	介護支援専門員	1名	10月15日 16日	2日	兵庫県のじぎく会館	口頭・復命
スキルアップセミナー	睡眠薬について	介護支援専門員	2名	10月21日	1日	石橋内科・会議室	口頭・復命
ケアマネジメント向上会議	自立支援、重症化予防について	介護支援専門員	2名	10月22日	1日	網干市民センター	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	事例検討、研究の基本的な考え方と進め方、 事例を用いた指導法とその留意点について	介護支援専門員	1名	10月27日 28日	2日	兵庫県のじぎく会館	口頭・復命
主任介護支援専門員研修	事例を用いた指導法とその留意点について	介護支援専門員	1名	11月6日	1日	兵庫県のじぎく会館	口頭・復命
第4回網干ブロック包括的、継続的ケアマネジメント研修	自立支援の考え方について	介護支援専門員	1名	3月9日	1日	網干市民センター	口頭・復命

苦情対応

令和2年度 苦情なし

事故対応

発生日	事故内容	事故対策
令和2年 10月30日	「サービス予定の入力誤り」 利用票・提供票作成時に入力ミスがあり、家族から「デイサービスの迎えが来ない」との連絡がある。	①利用票・提供票作成後、利用者や家族から聞き取った予定になっているか、確認する。 ②訪問し、利用者と家族に手渡した時に一緒に確認を行う。 ③家族には時間を置いてからの再確認と不備や不明な点があった場合の連絡を依頼する。
令和3年 1月27日	「携帯電話の置き忘れ」 事業所の携帯電話を利用者宅に置き忘れた。	①落ちやすいと思われる箇所（ポケットなど）に入れず、持参するカバンにて、管理する。 ②携帯電話を確認してから利用者宅から戻る。
令和3年 3月18日	「ケアプランの誤配布」 利用者にケアプランを交付した時に、他利用者の分を混ぜて、綴っていた。	①印刷した後、1枚ずつ、名前を確認してからホッチキスで止める。 ②手渡す時も1枚ずつ、名前を確認しつつ、内容を説明する。